

自ら学び、創造する人材へ



成長を加速させるエンジニア研修ならジョブサポート

新人エンジニア研修のご紹介

目次

サービス概要	エンジニア研修における悩み
	ジョブサポートにできること
サービス特徴	独自調査による育成課題
	育成課題を解決する研修設計
	理解度・進捗状況の可視化
	ジョブサポートの教育方針
受講について	コースのご紹介
	研修体制（通学・オンライン）
	研修費用
	人材開発支援助成金(人材育成支援コース)
	FAQ

ジョブサポートは「Web開発のプロフェッショナルを育てる」 エンジニア研修会社です

近年、新卒はもちろん若手未経験者を広く採用し、
通年でエンジニアを育てていくケースが増えつつあります。

しかし「未経験者は大丈夫なの？」「新人を基礎から教育できる人材が社内にはいない」
といった悩みを抱えている企業様もいらっしゃるのではないのでしょうか。

実際に未経験から採用すると面接時と違い
「PC操作から教育が必要な人」「挨拶から教えないといけない人」もいます。
そのため、配属先に困ったり、先輩社員から「基礎からやり直し」と
言われてる企業様も少なくありません。

ジョブサポートでは、配属先で活躍できる人材を育てることを念頭置き、
「業務実践型」の独自の教育体制をご用意。

AIに仕事を奪われない人材育成を目指し、貴社のますますの成長に役立てていただけます。

会社概要



社名	株式会社ジョブサポート
代表取締役	塚田 努
所在地	東京都千代田区飯田橋3-11-13飯田橋 i-MARK ANNEX8階 東京都文京区本郷3-43-16コア本郷ビル5階B室 ※通学研修は本郷三丁目オフィスで実施
資本金	7,000万
設立	1998年6月
事業内容	法人向けプロエンジニア育成事業(Java・フロントエンド) IT研修教材の企画・開発(Java・フロントエンド) 業務系アプリケーション企画・開発・運用保守 スマートフォン向けアプリケーション企画・開発・運用保守 有料職業紹介事業(有料職業紹介許可 13-ユ-303892)

サービス紹介

「技術力」「ヒューマンスキル」「仕事の心構え」を教育する三位一体型のサービス
多忙な人事・教育担当者、配属先の負担を大幅に軽減することができます



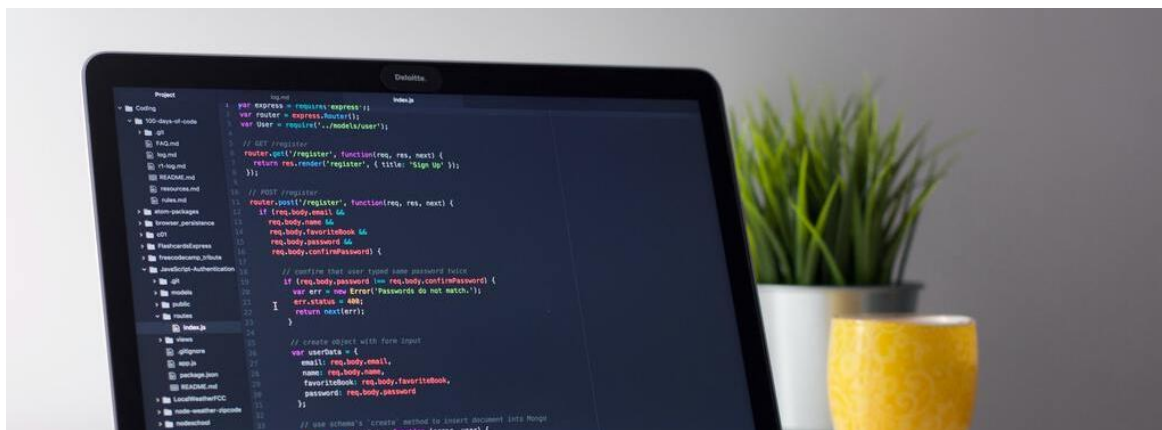
「講師1名：受講者10名」 伴走型の教育

講義・解説

30%

自学・質問

70%



自学形式で「考える力」を身に付ける



「知りたい事」は自ら発見する

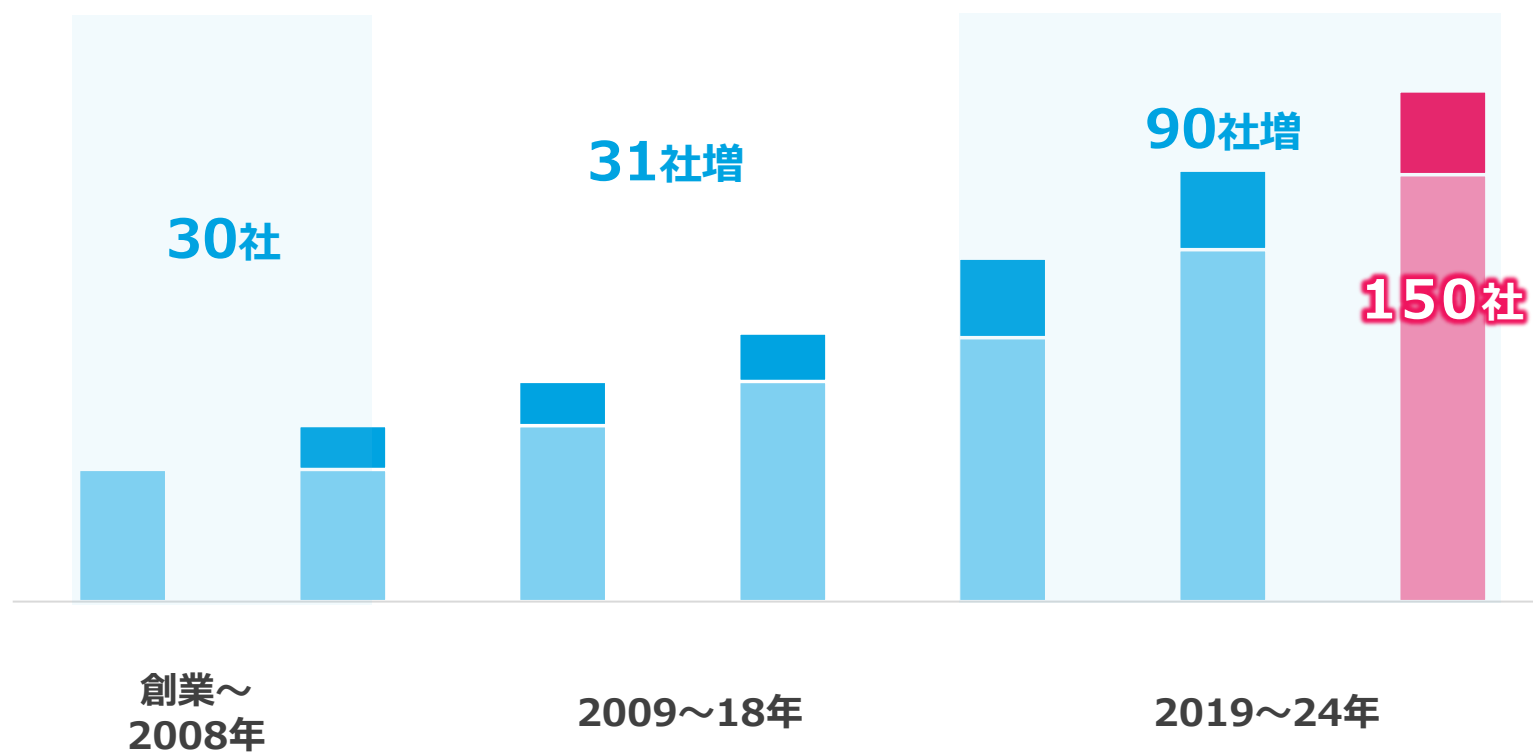


答えを教える

支援実績

中小企業だけでなく全国の手大メーカー、SIer、商社など大手市場企業、
独立行政法人など多くの業種からお問い合わせ・受講依頼をいただいています。

研修実績はこちら：<https://job-support.ne.jp/voice>



受講企業数約150社・受講者数約2,700名以上の実績があります。

目次

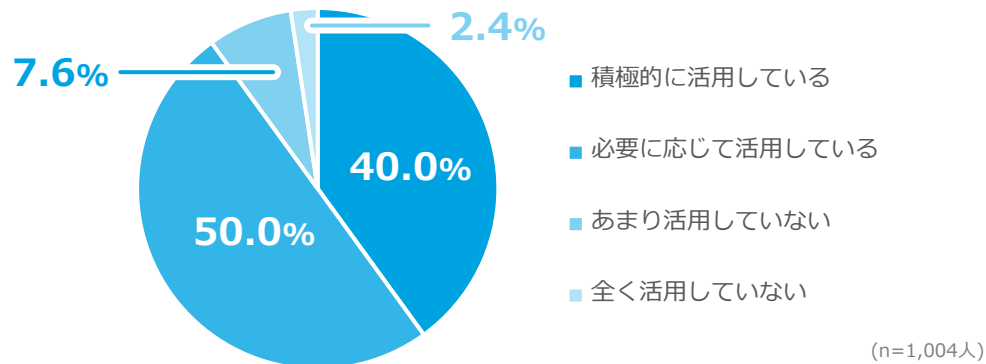
サービス概要	エンジニア研修における悩み
	ジョブサポートにできること
サービス特徴	独自調査による育成課題
	育成課題を解決する研修設計
	理解度・進捗状況の可視化
	ジョブサポートの教育方針
受講について	コースのご紹介
	研修体制（通学・オンライン）
	研修費用
	人材開発支援助成金(人材育成支援コース)
	FAQ

AI利用率9割の現状／OJT負担『8割が増加』の実態

生成AIの活用はすでに新人エンジニアの間で当たり前になっています。
しかしその普及と引き換えに、現場の指導負担は増加の一途をたどっています。

新人・若手エンジニアの生成AI利用状況

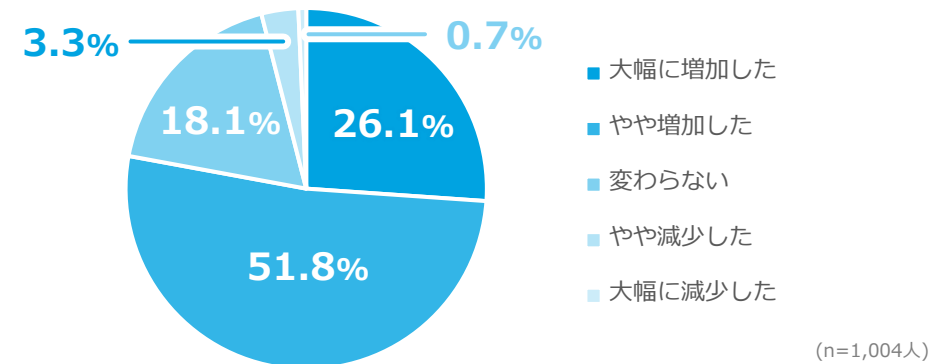
Q. 担当する新人・若手エンジニアの、業務における生成AIの利用状況に最も近いものをお選びください



新人・若手エンジニアの約9割が、
業務で生成AIを日常的に活用している実態が明らかに

生成AI利用後のOJT負担（指導・コードレビュー時間）の変化

Q. 新人エンジニアが生成AIを利用するようになってから、あなたの『指導・コードレビューにかかる時間（OJT負担）』はどのように変化しましたか？
(業務において生成AIを「活用している」と回答した方が回答)



生成AIの浸透に伴い、約8割のOJT担当者が
「指導・コードレビューにかかる時間」の増加を実感している。

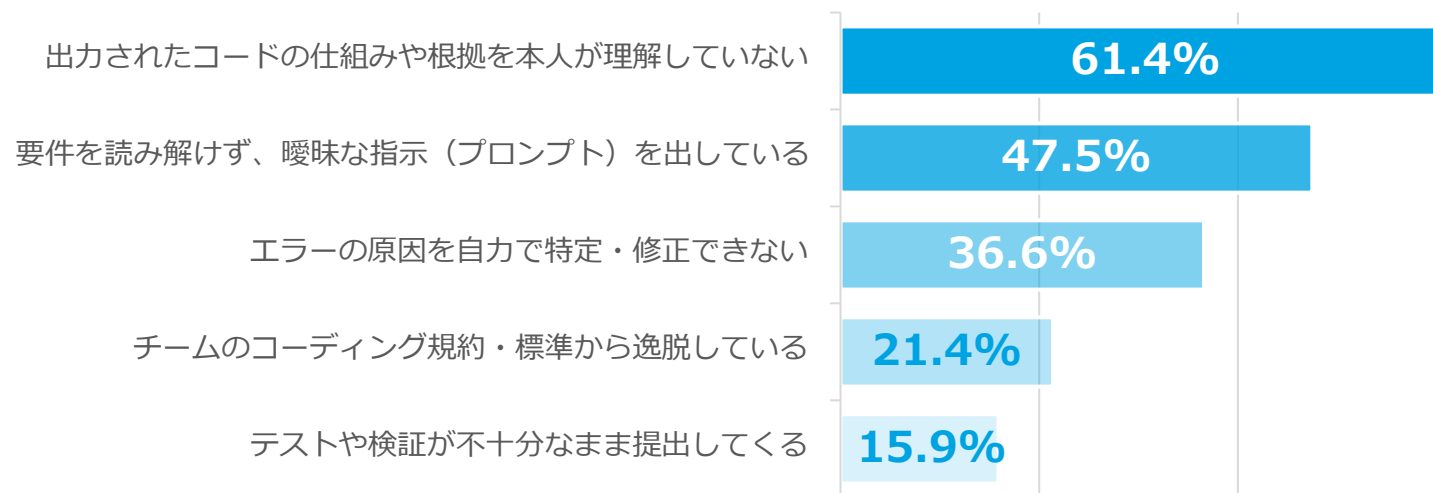
**AI活用が広がるほど、現場の指導負担は軽くなるどころか増えている。
これが、生成AI時代における新人教育のリアルです。**

新人エンジニアがAIの利便性に頼るあまり、なぜそのコードで動くのかを自分の頭で考えるプロセスが省かれてしまっている可能性が高い

新人・若手が生成AIで作成したコードに、直面したことがある課題

Q. 新人・若手エンジニアが生成AIを利用して作成したコードに対し、直面したことがある課題は何ですか？（複数回答可）

（業務において生成AIを「活用している」と回答した方が回答。全6項目中上位5項目を抜粋）



AIをうまく使いこなす以前に、
判断の土台となる基礎知識、
要件を正しく読み解く力、
自ら考え抜く力が不足している
実態がうかがえます。

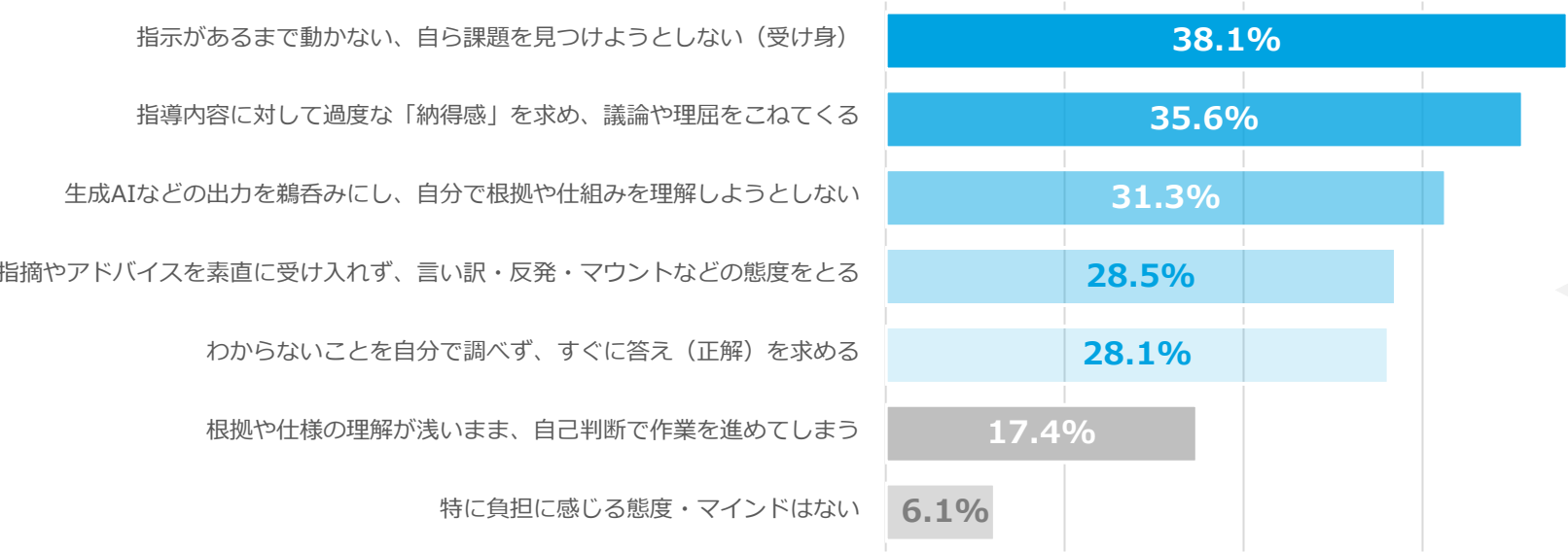
(n=1,004人)

生成AIが「考える力」を奪っているのではなく、
「基礎知識」「考える力」が育っていないまま、AIを使わせている。

新卒・若手エンジニアを指導する際、指示を待つだけで、自ら課題を見つけて動く主体性が育っていない実態があります。

指導において特に負担・難しさを感じる項目

Q. 新卒・若手エンジニアを指導する際、相手の『態度』や『マインド（仕事への姿勢）』において、特に指導の負担や難しさを感じる項目はどれですか？（最大3つまで）（全8項目中上位7項目を抜粋）



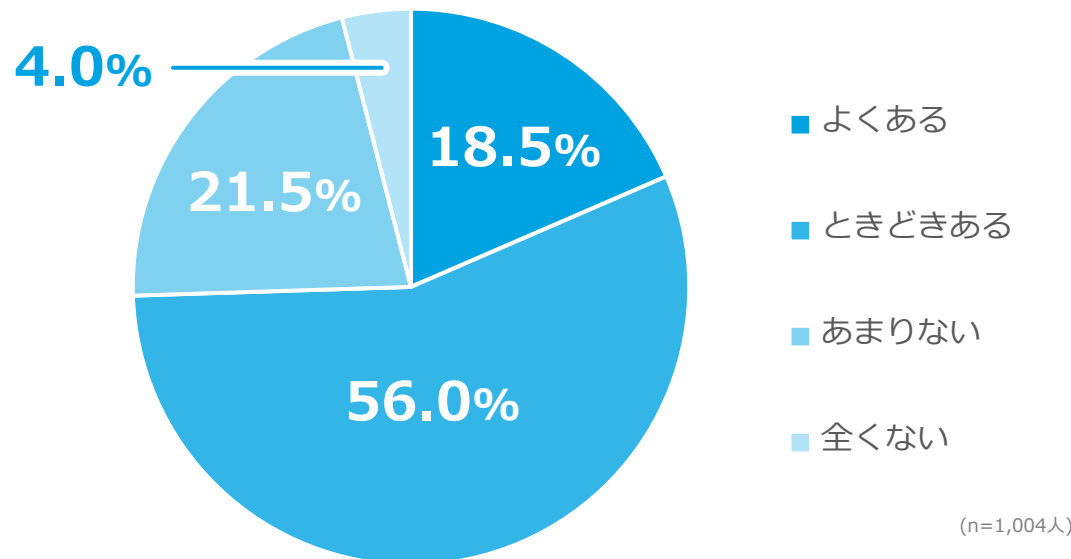
技術指導に入る前の「働く上での基本姿勢」から、OJT担当者が向き合わざるを得ない状況がうかがえます。

(n=1,004人)

新卒・若手エンジニアへの指導において、「パワハラと言われるのではないか」と不安を感じ、指摘を躊躇するケースが増加しています。

指摘を躊躇した経験の有無

Q. 新卒・若手エンジニアの指導において、『パワハラと言われるのではないか』と不安を感じて指摘を躊躇したことはありますか？



約7割のOJT担当者が、正当な業務上の指摘であっても「ハラスメントと受け取られるのでは」という不安から、指摘や指導そのものを躊躇した経験があると回答

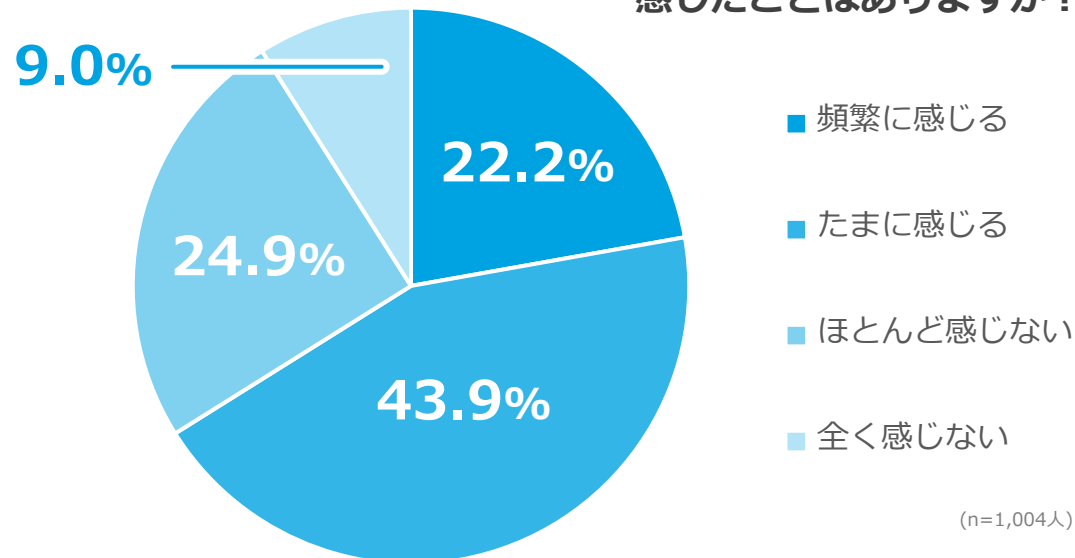
指導する側が萎縮し、必要なフィードバックを伝えられない状態が続けば、若手は自分の課題に気づけないまま成長が停滞してしまいます。

**「言うべきことを言えない」現場が増えている。
これも、生成AI時代・Z世代育成における新たな指導コストです。**

新卒・若手エンジニアの指導担当者としての業務負担が原因で、「会社を辞めたい」「職場を異動したい」につながっています。

育成負担を理由に、転職・異動を意識した経験の有無

Q. 新卒・若手エンジニアの指導担当者としての業務負担が原因で、あなた自身が会社を『辞めたい』職場を『異動したい』と感じたことはありますか？



約7割の指導担当者が、育成負担を理由に転職や異動を意識したことがあると回答しています。

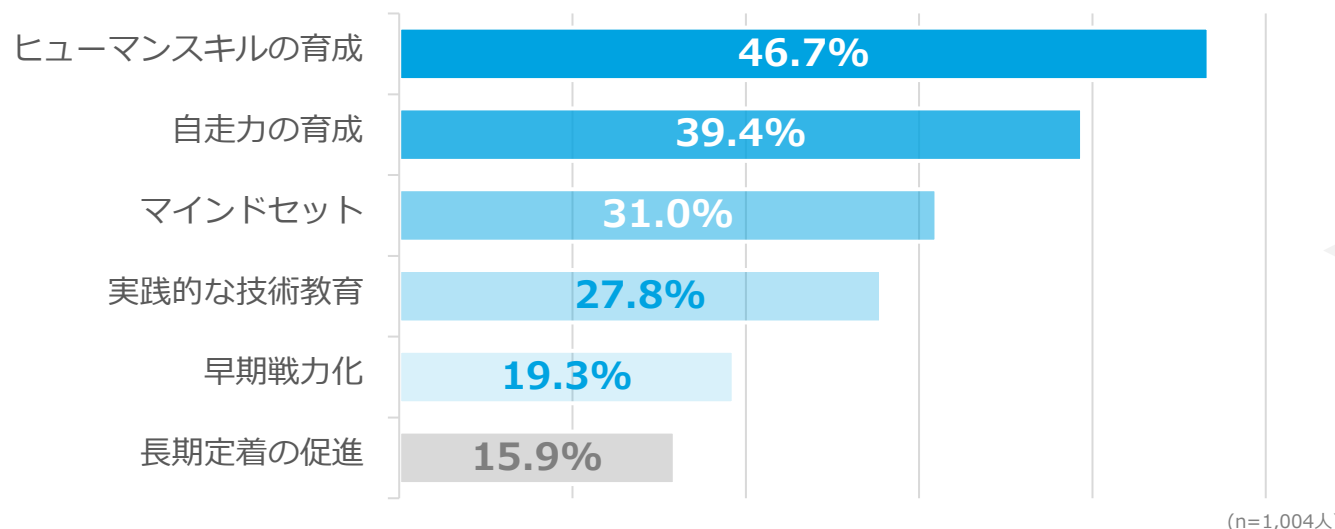
エンジニア職は他職種と比べても転職市場が活発です。指導担当者の離職は、単なる人事課題にとどまらず、自社開発における「プロダクト開発の遅延」、人月ビジネスにおける「稼働枠の消失・売上減少」など、事業モデルに応じた深刻な経営ダメージを引き起こします。

**育成負担の集中は、指導担当者の疲弊や人材流出につながりかねません。
だからこそ、配属前からの準備が重要です。**

OJT担当者が新人研修に期待することは技術教育ではなく「ヒューマンスキル」と「自走力」の育成です。

外部の育成支援サービスに期待する内容

Q. もし新卒・若手エンジニアの育成に外部の育成支援サービスを導入するとしたら、どのような内容に期待しますか？（複数回答可）



現場のOJT担当者は、技術指導への意欲や自信は持っています。

しかし「主体性を引き出す」「考える習慣を身に付けさせる」といった土台作りには、専門的なノウハウと時間が必要であり、通常業務と両立させることには限界があります。

**配属後の現場が新人に求めるのは、技術力だけではありません。
「ヒューマンスキル」や「自走力」も、研修段階からの育成が期待されています。**

ジョブサポートにできること

技術力だけでなく、ヒューマンスキル・心構えまでを同時に育成し、
独自調査で明らかになった新人育成の課題を配属前から改善します。



答えを教えない教育で
「自走力」を養う

Javaで学びながら、他言語にも
応用できる基礎力・問題解決力を育てる



現場で指導しにくい
「ヒューマンスキル・心構え」も
同時に指導

報連相・スケジュール管理・規律性を、
演習の中で毎日実践させる



個別指導と週報による
「情報の見える化」

技術理解度・ヒューマンスキル・
習熟度を配属前に共有し、
OJT担当者の申し送り負担も軽減する

**配属後の指導担当者の「教える負担」を減らすために、
現場で必要な基礎力・行動習慣を、研修中から育てます。**

特徴 | 自走力を養う業務実践型

研修理解度の高い人には応用力、未経験者・理解力が低い人には基礎強化と、受講者のレベルに合わせた「気づきを促す個別指導」「グループワーク」を実施します

実際の学習フロー（基礎知識）



この流れの中で同時に実施すること



テキストに対しての
不明点の相談



課題・修正内容の
認識合わせ



研修内容の
期限調整・相談

他言語への 応用実績

受講企業の約6～7割は、配属後にJava以外の言語（C#、C++、Python、PHPなど）で開発業務を行っています。

答えを教えず、「読む・考える・相談する・試す・修正する」を繰り返し、自ら答えに気づく力を養います。

特徴 | 「心構え」「ヒューマンスキル」教育

報連相やスケジュール管理だけでなく、「指示を待つ」「分からないことを放置する」「指摘を受けて終わる」といった受け身の状態から、自ら考え、相談し、改善する仕事の進め方へ。日々の研修そのものを通じて行動習慣を身につけます。

実際の学習フロー（ヒューマンスキル）



1日の研修スケジュール作成



チームで朝会



議事録作成



提出



各自研修開始・課題提出



退勤前に日報作成

緊張感を持って仕事のイメージを身に付けられるよう、
研修開始時に1日のスケジュールを立てチーム内で共有

研修受講の心構え ※研修初日のオリエンテーション時に丁寧に解説します

納期意識を持つ

バッドニュース
ファースト

指摘は否定ではない

迅速に行動する

疑問を放置しない

復習を徹底する

受講者の95%が「仕事に対する意識」の変化を実感
中堅層・リーダークラスに必要な「心構え」の土台を早期育成します

特徴 | 研修を「ブラックボックス」にしない情報共有

個別指導を重ねるからこそ見える、受講者の強み・課題・行動特性。
技術の習熟度だけでなく、配属後の育成に必要な情報まで継続的に共有します。

研修中の「変化・課題」を可視化し、配属後の育成へつなぐ

毎週の「変化・課題」を共有 (週報)



- 技術理解度・ヒューマンスキル・学習姿勢などを継続的に確認
- 課題への対応状況や、次週の指導方針まで共有
- 小さな変化も見逃さず、早期のフォローを実施



研修期間を通じて見えた「強み・課題」を共有

(研修修了報告書)

- 成長した点だけでなく、研修中に解決しきれなかった課題も整理
- 受講者の行動特性や仕事の進め方の傾向も共有
- 配属後の指導・フォローに必要な情報として申し送り

研修開始

毎週の週報で共有

研修修了報告書で申し送り

配属・OJTへ

初期アセスメント
目標設定

観察

課題の特定

指導・改善

変化を確認

技術・ヒューマンスキル・行動特性を多角的に観察し、
課題への対応と変化を継続的に共有します。

強み・課題の整理
残課題の申し送り

配属先での
指導・フォローに活用

配属・ OJTへの活用

- 研修で見えた強み・課題を、配属先のOJT担当者への申し送りに活用できます。
- 技術理解度だけでなく、行動特性や学習姿勢も踏まえ、配属先や指導方法を検討する際の判断材料として活用できます。

その他特徴 | 通学・オンラインの選択が可能

研修コースは、通学・オンラインのどちらにも対応しております。
それぞれにメリット・デメリットがあるため、ご希望に応じてお選びください。



通学



初学者にとって不明点が聞きやすい
ビジネススキルを強化しやすい
他の受講者とコミュニケーションが取れる



通勤が必要
自社にいないため受講状況を把握しにくい



オンライン



自社or自宅で受講できる
自社であれば受講状況を把握しやすい
自宅なら通勤の必要性がない

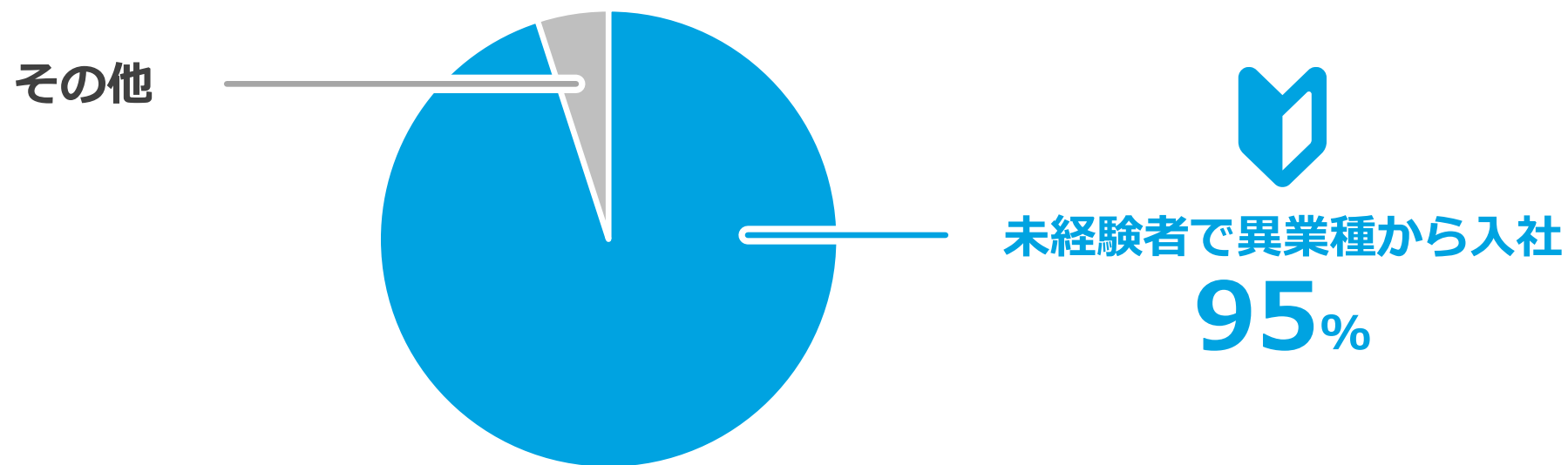


言語化ができない人は質問に苦戦する
ヒューマンスキルの指導が響きにくい
セルフコントロールが難しい

その他特徴 | 未経験者の教育ノウハウ

未経験で入社後、研修を経て多数のエンジニアが現場に配属されています。
客先常駐・受託開発で技術面でのクレームを受けたことはありません。

ジョブサポートに入社したエンジニアの内訳



業務実践型の研修で「調べる力」が身に付くため、
変化の激しい業界でもスキルチェンジが比較的スムーズにできています。

ジョブサポートの教育方針（AIとの向き合い方）

知識という「土台」がなければ、AIの出力を正しく判断できない。
だから研修期間は、あえて使わない期間をつくる。

研修期間



あえて生成AIを使わず、講師が答えを
教えずに問いかけを重ねながら、
「自分の頭で考え、調べ、確かめる」
経験を重ねる

AIが出力したコードの仕組みを理解しないまま
根拠なく使い続けることは、かえって成長の妨げになる

配属後



研修期間の繰り返しがあるからこそ、
AIを使う場面でも**出力結果の正誤を**
判断し、正しく活用できるように
なります。

配属後、新人エンジニアは
日常的に生成AIを活用しながら業務を進めていくことに

AIを使わせないための研修ではなく、AIを「使いこなせる」人材を育てるための研修です。

目次

サービス概要	エンジニア研修における悩み
	ジョブサポートにできること
サービス特徴	独自調査による育成課題
	育成課題を解決する研修設計
	理解度・進捗状況の可視化
	ジョブサポートの教育方針
受講について	コースのご紹介
	研修体制（通学・オンライン）
	研修費用
	人材開発支援助成金(人材育成支援コース)
	FAQ

新人向けプロエンジニア育成コース

|

Java2ヶ月コース一覧表

課題	日程	課題目的	詳細
オリエンテーション、アルゴリズム	2日 16H程度	アルゴリズムを学びプログラムの考え方を理解、特定の問題を解く手順(アルゴリズム)を考えることができる	アルゴリズム、変数と代入文、フローチャートの理解
Java基礎	7日 56H程度	Javaの基礎、プログラムの記述を学ぶ オブジェクト指向の特性を理解する	プログラムの基本、変数、四則演算、比較演算子、論理演算子、型変換の理解 / 配列、制御文の使い方 / クラスやオブジェクトの考え方、コンストラクタ、オーバーロード、クラスの継承、オーバーライド、インターフェース、例外処理などの理解
SQL基礎	3日 24H程度	SQLの基礎、データベースの役割を理解する	データベースとは / SELECT文、INSERT文、UPDATE文、DELETE文 / 表の結合、グループ、副問い合わせ、クエリの結合
Java Webアプリケーション	8日 64H程度	Webアプリケーション、MVCモデルの仕組み理解、APIドキュメントの読み方、使い方を学ぶ	よく使われるAPIの使い方 / JDBCの理解(データベースアクセス方法の理解) / Servletの理解、JSPの理解、HTML、JavaScriptの理解 / MVCモデルの理解
Java開発演習1 複数名いる場合チーム実施	17日 136H程度	MVCモデルを意識した設計、プログラムの作成ができるようにさせる / 仕事の立振舞い(報告・連絡・相談、スケジュール管理など)を実践する	基本設計書を元に詳細設計～結合テストまでを実施(※ テスト項目書の作成も実施) / FW(Spring)の理解 / Eclipseの高度で便利な開発支援機能に慣れる / 要所でレビューを実施
振り返り、理解度試験	1日 8H程度	Javaの理解度確認 2ヶ月の振り返りを行い配属後の成長を促す	Java理解度試験 / KPT(研修振り返り)

開発環境

言語 : Java1.8、SQL FW : SpringMVC DB : PostgreSQL APサーバ : Tomcat8.0
ツール : Backlog、Eclipse、Eclipse、SVN ※開発環境は予告なく変更する可能性があります

課題	日程	課題目的	詳細
オリエンテーション、 アルゴリズム	2日 16H程度	アルゴリズムを学びプログラムの考え方を理解、特定の問題を解く手順(アルゴリズム)を考えることができる	アルゴリズム、変数と代入文、フローチャートの理解
Java基礎	7日 56H程度	Javaの基礎、プログラムの記述を学ぶ / オブジェクト指向の特性を理解する	プログラムの基本、変数、四則演算、比較演算子、論理演算子、型変換の理解 / 配列、制御文の使い方 / クラスやオブジェクトの考え方、コンストラクタ、オーバーロード、クラスの継承、オーバーライド、インターフェース、例外処理などの理解
SQL基礎	3日 24H程度	SQLの基礎、データベースの役割を理解する	データベースとは / SELECT文、INSERT文、UPDATE文、DELETE文 / 表の結合、グループ、副問い合わせ、クエリの結合
Java Webアプリケーション基礎	8日 64H程度	Webアプリケーション、MVCモデルの仕組み理解、APIドキュメントの読み方、使い方を学ぶ	よく使われるAPIの使い方 / JDBCの理解(データベースアクセス方法の理解) / Servletの理解、JSPの理解、HTML、JavaScriptの理解 / MVCモデルの理解
Java Webアプリケーション実践	11日 88H程度	MVCモデルを意識した設計、プログラムの作成ができるようにさせる / 仕事の立振舞い(報告・連絡・相談、スケジュール管理など)を実践する	製造、単体テスト工程を実施 / Eclipseの高度で便利な開発支援機能に慣れる / 要所でレビューを実施 / Junitの使い方を知る
UNIXコマンド	2日 16H程度	Windows環境以外の環境理解とコマンドの使い方を学ぶ	UNIXコマンド基礎
Java開発演習 複数名いる場合チーム実施	17日 136H程度 + 1日振り返り 理解度試験	MVCモデルを意識した設計、プログラムの作成ができるようにさせる / チーム開発の場合、情報共有、チームコミュニケーションの取り方を実践する	基本設計書を元に詳細設計~結合テストまでを実施(※ テスト項目書の作成も実施) / FW(Spring)の理解 / Eclipseの高度で便利な開発支援機能に慣れる / 要所でレビューを実施



開発環境

言語 : Java1.8、SQL FW : SpringMVC DB : PostgreSQL APサーバ : Tomcat8.0
ツール : Backlog、Eclipse、Eclipse、SVN、JUnit ※開発環境は予告なく変更する可能性があります

学習目的	アルゴリズムからきっちりフォローすることでプログラムに対する嫌悪感を解消。 コードレビューによる具体的な指導で「読みやすいプログラム」を書く習慣が身につく。
研修内容	弊社独自の Web テキストを用い、プログラミング演習理解度を確保するためにグループワークを実施 ※3ヶ月コースは2ヶ月コースより時間をかけて基礎を指導します

```
Connection connection = null;
PreparedStatement preparedStatement = null;
try {
    Class.forName("org.postgresql.Driver");
    connection = DriverManager.getConnection("jdbc:postgresql://localhost:5432/lessondb",
    String[] shohinId = { "030", "031", "032" };
    String[] shohinName = { "SHOHIN030", "SHOHIN031", "SHOHIN032" };
    int[] tanka = { 3000, 3100, 3200 };

    String SQL = "INSERT INTO TB_SHOHIN (SHOHIN_ID, SHOHIN_NAME, TANKA) VALUES( ?, ?, ? ) ";
    preparedStatement = connection.prepareStatement(SQL);

    int result = 0;
    for (int i = 0; i < shohinId.length; i++) {
        preparedStatement.setString(1, shohinId[i]);
        preparedStatement.setString(2, shohinName[i]);
        preparedStatement.setInt(3, tanka[i]);

        result += preparedStatement.executeUpdate();
    }

    System.out.println(result + "件登録しました。");
} catch (ClassNotFoundException | SQLException e) {
    e.printStackTrace();
} finally {
    try {
        if (preparedStatement != null) {
            preparedStatement.close();
        }
        if (connection != null) {
            connection.close();
        }
    } catch (SQLException e) {
        e.printStackTrace();
    }
}
```

アルゴリズム		
フローチャート	線形探索	ソート
Java		
クラス	コレクション	MVCモデル
PostgreSQL		
SELECTなど	テーブル結合	サブクエリ

テキストを注意深く読む習慣を身に付け資料の読み飛ばしを無くす習慣を身に付けます

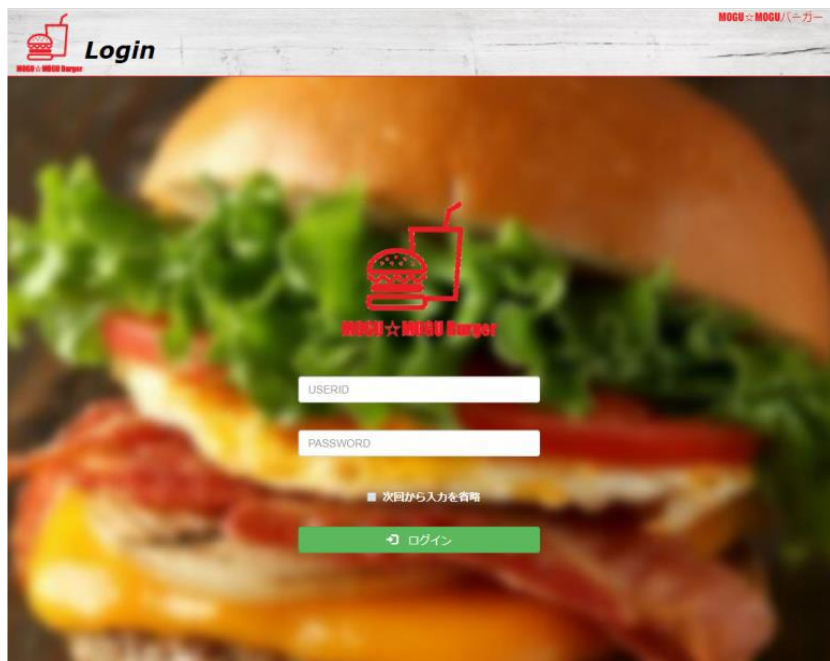
新人エンジニア研修 開発課題例

学習目的

システム開発の体験。※ 2、3 ヶ月コース限定。受講人数により個人・チームと人数が変わります
Spring Frameworkの使用。※ 最終日に理解度テストと振り返りを実施

研修内容

Java基礎 + 弊社独自の開発課題(詳細設計～結合テスト)を用い、社内向け簡易ニュースサイトを作成
開発課題は1人1機能を担当します



Spring Framework

DI(依存性注入)

入力チェック

Spring Security

仕様書

UML図読取

単体仕様書作成

結合仕様書作成

レビュー

処理仕様書

単体テスト仕様書

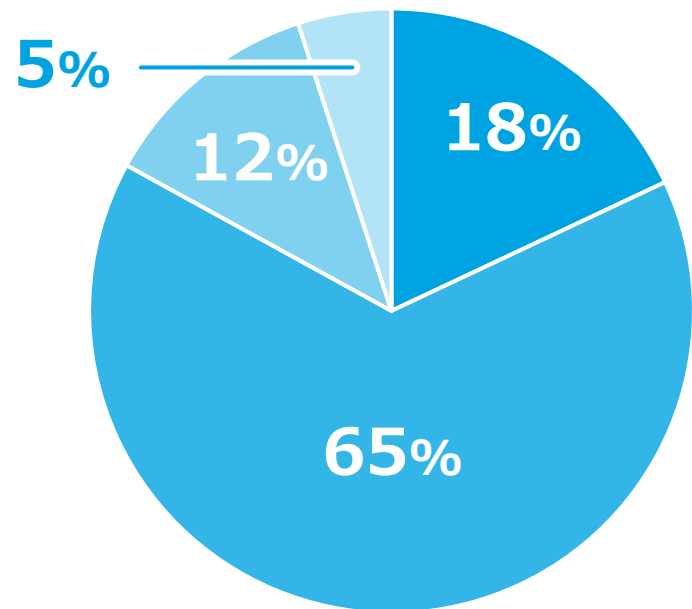
コードレビュー

結合テスト仕様書

技術面だけでなくビジネス面も習得可能。言語問わず開発業務に関わる方におすすめです。

受講に関するアンケート調査

Q. 研修前と研修後で仕事に対する意識が変わりましたか？



言われたことをやればいいやという考えが今まであったが、自主的に行動していかないとスキルアップは望めないことがわかり、今後は積極的に行動していきたいと思った。

納期に対する意識が変わった。
また、納期を守るために業務中の報連相の重要性が研修前より理解できた。

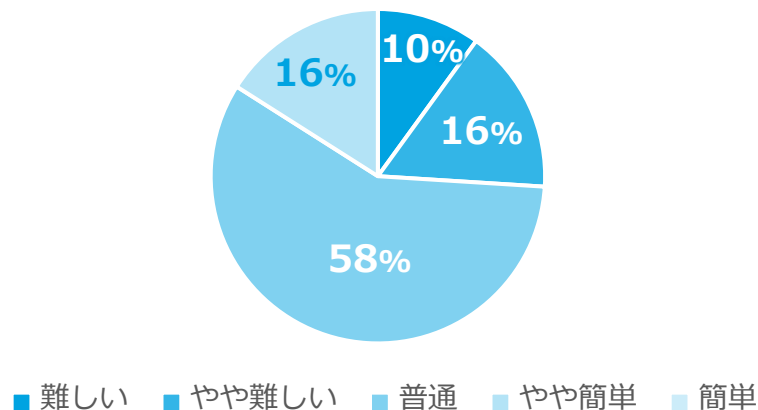
わからないことを考えて時間を無駄にするぐらいならわからないことを質問するための整理をするなど、考え方を考える努力の必要性があることをこの研修を通して学んだ。

ただコードを書くだけではだめだと本当に思いました。
今後レビューが少し不安になりました。

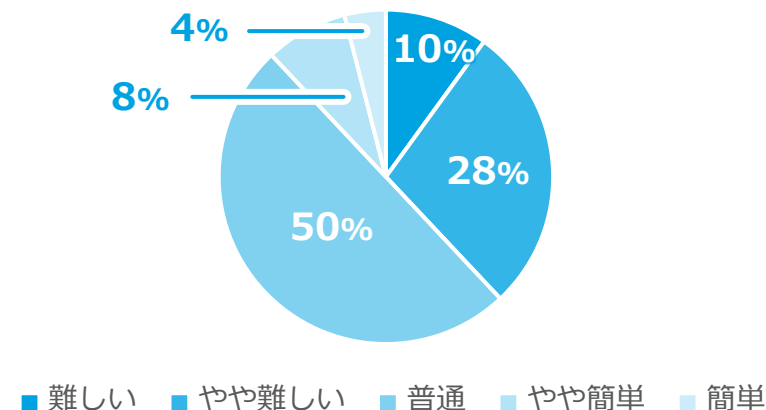
- 意識改革があり、180度変わった
- 仕事に対する意識が変わった
- 少し変化がある
- あまり変わらない

受講に関するアンケート調査

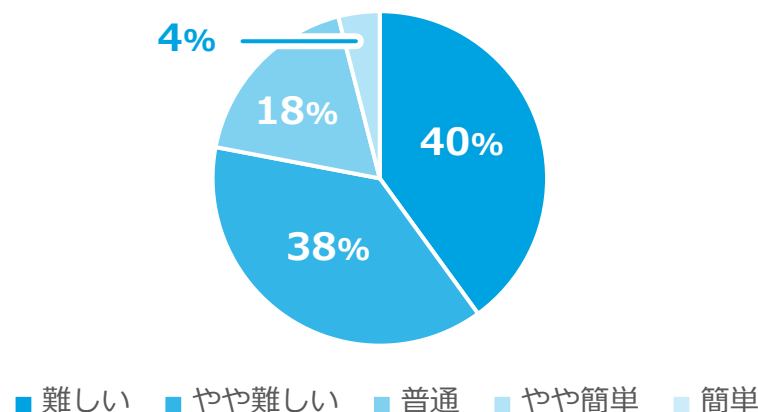
Q. アルゴリズムテキストの難易度はいかかでしたか？



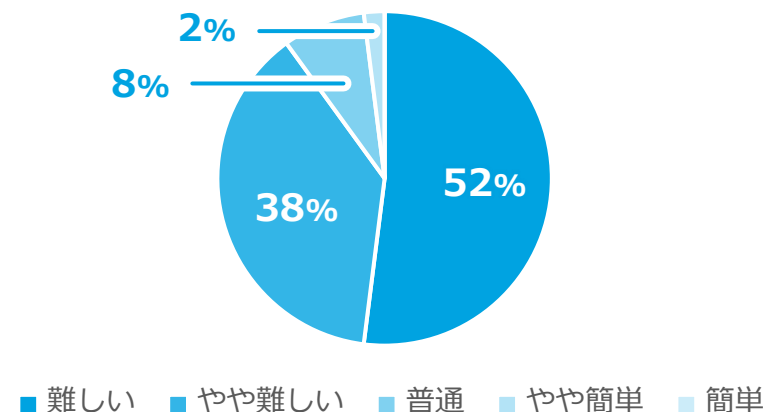
Q. SQLテキストの難易度はいかかでしたか？



Q. Javaテキストの難易度はいかかでしたか？



Q. Java開発課題の難易度はいかかでしたか？



研修体制（通学・オンライン共通）

研修期間

通学・オンライン共通

2ヶ月コース
2027年4月2日～2027年5月31日

38日・約304時間

3ヶ月コース
2027年4月2日～2027年6月30日

60日・約480時間

※ 研修開始日と貴社の予定が合わない場合、研修スケジュールの調整も可能ですのでご相談下さい

研修時間（営業時間）



平日 1日 8時間

9:00～18:00（休憩 12:00～13:00）

研修講師



全員ジョブサポートの社員で講師としての
教育訓練を積んだ人材です

※自社の勤務時間が1日8時間未満の場合、事前にご相談下さい

※土日祝日はお休みです

研修体制（通学）



勤怠管理

社内システムにて毎日の出勤、退勤、日報を管理します
※勤怠不良が明らかに目立つ場合、ご相談させて頂いております



PCについて

通学の場合、1人1台ノートPCを貸し出します



受講場所、 見学について

ジョブサポート本郷三丁目オフィスにて実施
※受講者多数の場合、別拠点を借りて運営を行う予定です
研修中の受講見学については、事前予約の上、1社2名様まででお願いしております



感染症対策

研修フロアに入る時の手消毒のご協力をお願いしております
講師、受講者で感染者が発生した場合、一時的にオンラインに切り替えて受講を進めます
※37.0以上の発熱、少しでも体調が思わしくないと感じられた場合、出席の見送りをいただいております

研修体制（オンライン・リモート）

受講者の勤怠管理

出席確認

研修開始時に1日のスケジュール提出



退勤確認

18時までに日報提出して退勤扱い

貴社でご準備いただく物



PC

OS：Windows10・メモリ4G以上・カメラ付き推奨

※用意が難しい場合、一度ご相談下さい

※ Win11・OSがProの場合、研修受講に支障が生じる可能性があります



ネット環境

ビデオ会議ができる速度回線が必要です

※ 会社に出社して受講される場合、社内ネットワーク環境、セキュリティルールを事前にご確認ください

Webカメラテスト、研修開始説明



研修受講日の2営業日前までにWebカメラテスト、研修開始説明（1時間程度）を行いWebカメラの疎通確認を行います
オンライン研修はGoogle Meet、chatを活用しています

ジョブサポートから貴社への提出物（通学・オンライン共通）

週報



毎週月・火で週報を管理者サイト(Backlogの貴社専用プロジェクト)へ提出

1週間が2営業日以内の場合、翌週の週報とまとめて報告



講師の作成した研修理解度、進捗状況、ヒューマンスキルなどの成長度合いを報告

週報は助成金申請の書類として使用する事ができ、申請資料の効率化に寄与します / 受講者の受講状況により、研修のゴールを調整いたします

研修修了報告書



研修終了後、受講者の研修総括を作成

技術理解度、ヒューマンスキル、講師から見た育成アドバイスを報告。研修終了後に実施する打合せでも詳細をお伝えしております。

助成金申請サポート資料 人材開発支援助成金を活用する場合

※ その他必要な書類がある場合、事前にご相談下さい

計画・支給申請資料

見積書・研修スケジュール

研修カリキュラム表紙

研修費の領収書
研修受講費の入金を確認後に作成

通信ログ（TV 会議、チャット等）
オンライン・リモート講座受講者のみ

勤務表
オンライン・リモート講座受講者のみ

受講お申込みの流れ

オンライン受講の場合、研修開始2営業日前までにWebカメラテスト・研修開始説明を1時間程度行うため、調整のご協力をお願いします。



助成金を活用される場合、計画申請が必要になります。
お早めにご相談ください。

2027年新人エンジニア研修費用

研修費用

通学・オンライン共通

Java2ヶ月コース
Java基礎1ヶ月＋開発演習1ヶ月
(FW・Spring使用)

440,000円(税別) / 名

Java3ヶ月コース
Java基礎2ヶ月＋開発演習1ヶ月
(FW・Spring使用)

650,000円(税別) / 名

研修費用のお支払いについて



研修終了月の月末払い

※請求書は終了月の上旬に送付

例：研修が6月末で終了の場合



6月末払い

中小企業の場合、助成金を活用すれば自己負担を大幅に抑える事が可能です。

人材開発支援助成金(人材育成支援コース)

助成率 ※1名辺りの研修費用の補助率、1時間辺りの人件費助成

通学・オンライン共通

経費補助
(中小企業/大企業)

45% / 30%

賃金助成
(中小企業/大企業)

800円 / 400円

有期契約労働者の場合
(経費補助/賃金助成)

70%/800円

中小企業の定義 ※A、Bどちらかを満たすと中小企業。満たさない場合、大企業扱いで助成率が変わる

主たる事業	A 資本金の額または出資の総額	B 企業全体で常時雇用する労働者の数
小売業（飲食店を含む）	5,000万円以下	50人以下
サービス業(IT企業含む)	5,000万円以下	100人以下
卸売業	1億円以下	100人以下
その他の業種	3億円以下	300人以下

制度内容の変更があった場合、上記と異なる可能性があります。
ジョブサポートでは計画申請・支給申請の資料作成サポートも行ってます。

Q. 答えを教えない研修は厳しそうで心配です。未経験でも対応できるのでしょうか？

20年以上全くの未経験者を中心に答えを教えず発見させるスタイルの研修を行っており講師が答えにナビゲートもするためご安心下さい。
受講者の約8割程度がプログラミング未経験でPCやファイルの使い方から学ぶ人も多くスタートラインがバラバラでも教育可能です。
弊社のシステム開発部も9割以上が未経験者で入社しており同じ研修を受け開発に関わっています。

Q. 業務実践型とは何ですか？

集合型と個別指導型の研修の良い部分を取り入れた受講スタイルです。
研修は演習ベースで課題を進め、グループワークや1人1人に向き合った質の高い指導を実現しております。
研修の質を担保するため現在講師1名が受講生の上限を～10名程度としております。

Q. いつまでに申し込みを済ませたら良いのでしょうか？

助成金を活用される場合は計画申請など準備期間が必要になるため通学研修2週間前、オンライン・リモート3週間前を目安にして下さい。
4月開始の新人研修は近年12月～1月に埋まる傾向です。お急ぎの場合は担当営業に一度ご相談下さい。

Q. 助成金サポートは行っていますか？

計画申請、支給申請の資料作成をサポートしており貴社の負担を減らす事ができます。詳しくは担当営業にお問い合わせ下さい。

Q. ノートPCは用意していただけるのでしょうか？

通学研修では弊社でノートPCを用意いたします。

オンライン・リモートの場合、貴社で準備が難しい場合一度ご相談下さい。

Q. ハイブリッド形式の受講はないのでしょうか？

弊社は通学・オンライン2つの形式で対応しております。

通学の場合、天災・感染症等で通学が困難になった場合のみ、一時的にオンライン受講に切り替える対応をしております。

Q. 通学研修の見学は可能でしょうか？

担当営業にご連絡いただければ調整可能です。受講者がいるため社内の撮影はご遠慮下さい。

Q. 研修の開催時期を教えてください

4月開始の春季研修、7月～翌年2月開始まで通年で研修を開講しております。

新卒者だけでなく中途採用者の教育も対応させていただいておりますのでお気軽にご相談下さい